

## 英文法

※覚えていない、または覚えたいことを乱雑にメモしています。

### 関係代名詞

- 1 whoseは所有格の関係代名詞で、直後に名詞が必要
- 2 whomは、customers whom I met（私が会った顧客）のように後ろに主語と動詞が必要
- 3 複合関係代名詞のwhoeverには、前の名詞を説明する形容詞のような働きはない

A : who 主格の関係代名詞（先行詞が「人」の場合）	A : Whenever 複合関係副詞「～する時はいつも、～する時ならいつでも」
B : whoever 複合関係代名詞「～する人は誰でも、誰が～しようとも」	B : Whatever 複合関係代名詞「～するものは何でも」
C : whose 所有格の関係代名詞（先行詞が「人」・「もの」の場合）	C : However 複合関係副詞「どんなに～しようとも、いかに～であろうとも」
D : whom 目的格の関係代名詞（先行詞が「人」の場合）	D : Whoever 複合関係代名詞「～する人は誰でも、誰が～しようとも」

※複合関係詞には名詞と副詞節（副詞の働きをするかたまり）を作る用法があります。

「どうであろうと」という日本語から、(C) Howeverを入れたくなるかもしれません。

しかし、howeverはHowever high the cost may be（費用がどれほど高くても）のように、程度を表す場合には直後に形容詞が必要です。  
空所に(B) Whateverを入れるとWhatever the cost may be（費用が何であろうと＝費用がどうであろうと）となり、文意が成立します。

※whicheverは、**whichever you like**（どれでもあなたの好きなものを）という形で頻出

### 比較級

**prefer A to B**の形を作り、「A（彼女の新しいオフィス）をB（古いオフィス）より好む」

prefer to ～は「～することを好む」ですが、否定にする場合はnotを間に入れて特別な形にします。prefer not to ～ は「～しないことを好む」

much : 形「多くの」（不可算名詞を修飾）

many : 形「多くの」（可算名詞を修飾）

形容詞little（不可算名詞を説明して「少ししかない」という意味）の比較級lessと最上級least

**at least**で、「少なくとも」

**by far**で最上級をさらに強調して「圧倒的に、群を抜いて」という意味

**the very best**で、「至高の、最もすぐれた」という意味になります。単に一番良いのではなく、その中でも最もすぐれているというイメージ

### 三単現

I looked in every room. どの部屋もことごとくのぞき込んだ  
《★【用法】every… は単数構文をとるが all… は複数構文をとる; I looked in all the rooms. と比較すること》。  
Every word of it is false. その一語一語ことごとく偽りだ。  
I enjoyed every minute of the concert. 私は演奏会を初めから終わりまで本当に楽しく聞いた。  
They listened to his every word. 彼らは彼の言葉一つ一つに耳を傾けた  
《★【用法】every の前に冠詞は用いないが所有格代名詞は用いられる》。  
be entitled to doで「～する資格がある」

クイズ

「彼はうっかりデータを消してしまった」って英語で何ていう？ 日本語に合うように空所に適切な語を入れてください。

He erased the data ( ) .

- A : fluently 流暢に
- B : fortunately 幸いなことに
- C : absentmindedly うっかり
- D : willingly 進んで

正解は(C)です。absentmindedlyは副詞で「うっかり」という意味。  
absentは「留守の」ですから、mind「心、精神、注意」が「留守」になってしまっている様子と考えればいいでしょう。

- ★すぐに使えるフレーズ★
- ・Jake did it carelessly.「ジェイクはそれをうっかりしてしまった」
- ・a careless mistake「うっかりミス」

「分割払いをお願いします」って英語で何ていう？ 日本語に合うように空所に適切な語を入れてください。

Can I pay in ( )?

- A : installments 分割払い(の1回分)
- B : advance 前進
- C : detail 詳細
- D : cash 現金

正解は(A)です。installmentは「分割払い(の1回分)」という意味。何度も分けて払うわけですから、複数形のinstallmentsが用いられます。  
★すぐに使えるフレーズ★  
・pay a lump sum「一括で払う」

・pay it with credit card「クレジットカードで買う」

### 可算名詞・不可算名詞

**equipment**は「設備ひとまとめ／設備一式」という意味で、もともと「ひとまとめ」なので数えません。

複数のsなどは**つかず**、**exercise equipment**「運動器具」となります。

**furniture**は「家具ひとまとめ／家具一式」という意味で、もともと「ひとまとめ」なので数えません。よって、複数のsは不要です。

※ちなみに動詞furnishは、**furnish 人 with 物**「人に物を与える」の形でよく使われます

ひとまとめで表すfurnitureのうちの 1 つを表したい時には、**a piece of furniture**として「家具一点」という意味にします。

**information**「情報」は「目に見えない」ので数えません。

coffeeやwaterのように形をイメージできない液体などの物質は、

a cup of coffee（コーヒー 1 杯）、two glasses of water（水コップ 2 杯）のように、それらを入れる容器を使って数えることができます。

### 複合名詞

construction site「工事現場」という“名詞＋名詞”の表現

expiration date「賞味期限・有効期限」

employment agency 「登録用紙」

conference room「会議室」

law firm「法律事務所」

production company「制作会社」

例外もありますが、部署名は-ing形の名詞で表すことが多い。

accounting department（経理部）、advertising department（宣伝部）などはTOEIC® L&R TESTにも頻出。

fashion industry（ファッション業界）、music industry（音楽業界）、automobile industry（自動車業界）など、

industryは名詞と結びついて「～業界」という複合名詞を作ることが多い。

food preparation「食品の調理」

health inspector「衛生検査官」

completion date「完成日」

business facilities「会社施設」

account number「口座番号」

registration form「登録用紙」

branch code（支店番号）

**as well as**は接続詞で「と同様,及び, と共に」

government employee「公務員」

dedication ceremony「開所式」、childcare center「保育所」

### 復習

(by) no later than ～「～までに」という表現で、「期限」を表すときに使われる。

instead of 前置詞 代わりに, 立代って, せずに

代名詞

either A or Bで「AかBのどちらか」

each、every、eitherは後ろに「単数形」がくる

「もう一つ、別の」

- the other 残りの一つ（theは共通認識 誰もがどれか分かる場合）
- another 複数あるうちの一つ(an + other)

ジーンズやパンツ類は、one、twoではなくa pair、two pairsと数えます。

常にペアで使用するgloves（手袋）、shoes（靴）などと同じ考え方。

anotherは「もう1つの」という意味以外に、すでにあるものに対して「追加の」という意味も持っています。

通常はanotherの後ろには単数形しか置けませんが、この意味で使う場合には後ろに「数詞 + 名詞の複数形」を置くことができます。

three + pairs（3本）を、1つのまとまりだと考えてその前にanotherを置くと「追加の3本」という意味のかたまりになる。

itは同一のものを指し、oneは同じ種類の違うものを指す代名詞

be tired of「～にうんざりする」

one anotherで「互いに」という意味。each otherも同じ意味。

“X times 比較級 than A”「AのX倍～だ」

“one of the 最上級 複数形”「最も複数形のうちの1つだ」

oneは前置修飾・後置修飾ともにOKですが（前後どちらからでも修飾できる）、itは両方NG

itは「特定」の名詞を受けて「ズバリそれ！」というイメージです。「不特定（同種類）」を受けるoneとの区別

the following day :その次の日

itが指すのは同一のものです。また、itには冠詞theをつけたり形容詞oldで説明を加えたりできない。

「3つの“e-”（each／every／either）は単数扱い」

everyはevery + 名詞の順で使う形容詞です。every of ～の順にはならない。

someは複数なのでwasとつながらない。

allは、その後ろに数えられる名詞（可算名詞）が続く場合には、必ず複数形にしなくてはいけない。

lease agreement「賃貸契約」

mostは「形容詞・代名詞」の働き

noneは「noの代名詞バージョン」

※noには代名詞の用法がないので、代わりにnoneを使うというイメージ

形容詞の代名詞化

代名詞になれない：almost/every/no = ofの前に入らない

all of/most of/many of/some of/either of/ much ofなど、ofの前置詞となれる形容詞(代名詞化)がある。

muchは不可算名詞に使える

note that～「～に注意してください」

“～able・～ible”には「可能（～できる）・受動（～される）」の意味がある

まぎらわしい形容詞 confident「確信した」、confidential「秘密の」

確認

eachは「2人以上」に使い、さらに「単数扱い」

eitherは「2人」に使う

“as ～ as …”「…と同じくらい～だ」→“not as ～ as …”「…ほど～でない」

as ～ asは「等号（＝）」ではなく、「不等号（≥）」を表す。

そのため、否定形は「<」を表して「…ほど～でない」となる。

「一番～だ」はthe -estですが、「○番目に～だ」は“the 序数 -est”で表す。

the second largest city「2番目に大きな都市」など

closing a contract ： 契約を結ぶ

基本的に「形容詞+-ly＝副詞」

businessは「仕事」という意味ではよく知られていますが、TOEIC® L&R TESTでは「会社」という意味で頻出

be動詞はその前後を＝（イコール）の意味でつなぐ

～ableは（～できる、可能な） 形容詞を作る接尾辞で受動態

語尾に-iveという、形容詞特有の接尾辞 例:supportive

形容詞独特の語尾-calがついたeconomicalは「コストがかからない」という意味

例えばan economical car（コストのかからない＝燃費の良い車）のように使う

economic sense（経済的意義）

carry out「～を実施する」

名詞lease「賃貸期間」

competitiveは「誰にも負けない」というイメージ

competitive salaryは「どこよりも高い給与」、competitive priceは「どこよりも安い価格」

moreとthanの間に置いて比較の形を作ることができるのは副詞と形容詞

the sales representative 営業担当者

副詞

文法的には余分な要素 形容詞+ly （例外あり、名詞+lyは形容詞：例 friendly）

自動詞→「あっ、そう」 目的語なし

他動詞→「何を？」が成り立つ（※どこに？誰と？などは別）

comeは「来る」という意味で「何を？（目的語）」は必要なく、SVで文法的に完結



workは自動詞なので後に「何を？（目的語）」は必要ない

**Ms. Bunda works extremely quickly.**

quicklyという副詞の前に置いて、その副詞を説明することができるのは副詞だけ

副詞は名詞以外何でも説明できるので、副詞自身を説明することもできる

behind the company headquarters （本社の裏に）

is becoming crowded（混雑しつつある）

**sensitive**「影響を受けやすい・敏感な」と、**sensible**「分別のある」との区別重要

highly「大いに・非常に」とhigh「高く」との区別

earlyは「ちょっと足りない」というイメージ

nearly an hourで「ほぼ 1 時間（ 1 時間にちょっと足りない） 」

**紛らわしい副詞**

hard（硬い、熱心に)- hardly（ほとんど～ない）  
late(遅い、遅く) - lately（最近）  
near(近い、近く) - nearly ≒almost(ほとんど)  
short（短い、短く) - shortly(まもなく)  
high(高い,高く) -highly(非常に、大いに)

nearlyはalmostと同じく「ほとんど」という意味で、あと少しで届くイメージ

nearly fifty cars（50台近い車） 、nearly ten years（ほぼ10年）

save time「時間を節約する」

so that「～できるように」

**前置詞**

**on schedule**「スケジュール通りに」という熟語

**on**は「接触」を表すので、「スケジュールに接触して」→「スケジュール通りに」

他に、on time「時間通りに」 on track「スケジュール通りに」

期間 forは後ろに「数詞やsome、fewなどを伴う期間（数字など） 」

**during**は後ろに「特定の期間（the summer vacationなど） 」

be aimed at ～「～を目的としている・～向けである」という熟語

**at**の核心は「一点」で、そこから「対象の一点（～をめがけて） 」

look at ～「～を見る」／smile at ～「～を笑う」など

onで心の依存 depend on「依存する」 It's on me 「私のおごり(料金)」

**by**は、後ろにある期日までの間に、1度だけその動作をする場合に使う

一方**until**は、その時までずっとその動作が続く場合に使う前置詞

**while**は、後ろにSV（主語と動詞のある形）を続けて使う接続詞

**during**は後ろに名詞（または名詞のかたまり）が続く前置詞

for + 時間で、「それだけの期間」 ※ for three hours（3時間）

in + 時間は、「それだけの時間の後に」 ※in three hours(3時間後に)

**at times**（時々）

**with**は、「～があれば」という意味を持つ

with proper careで「適切なお手入れがあれば」という意味

「印刷物には**in**」

電波媒体（TV、ラジオ、ウェブ、ネット）は**on**

fromは「分離」のイメージ

toは「方向（～へ向かう）」のイメージ

**help A with B**で、「A（人）のBを手伝う」

## 熟語

**look forward to -ing**「～するのを楽しみに待つ」

このtoは不定詞ではなく「前置詞」なので、後ろに「動名詞（-ing）」がくる

「楽しいことを何度も反復して考える」というイメージから-ingをとる

to不定詞は「単発」⇔動名詞は「反復」のイメージ

**keep up with ～**「～に遅れずについていく」

「～と一緒に（with）上がっていく（up）のを保つ（keep）」

**on account of ～**「～のために」という「原因・理由」を表す表現

due to ～／owing to ～／thanks to ～／as a result of ～ なども「原因・理由」を表す重要表現

**devote oneself to ～ing**「～に専念する」

to + 原型→不定詞

to + ing →前置詞

**come across**「出会う,出くわす,見当たる」

come acrossは動詞と前置詞のかたまりで 1 つの意味になり、「句動詞」と呼ばれる

**in time for**「～に間に合って」

name A after B「BにちなんでAを名づける」

name A as B「AをBとして指定する」

**in response to**「～に応じて」

go over 「～を見直す」

go on 「～し続ける」

go along 「～について行く」

go across「～を横断する」

come up with「～を思いつく・考えつく」

turn up 「～を上げる」

turn on 「～をつける」

turn in 「～を提出する」

turn off 「～を消す」

get around to「～する時間の余裕ができる」

set out for「～に向けて出発する」

時間

in 30 minutes「30分後に」 ※以内ではない

in a moment「すぐに」

in no time「今すぐに」

現在を基準に「～後・～したら」を表すときはinを使う

within an hour「1 時間以内に」 within→inの仲間

onは「日付・曜日」などに使う

for「～の間」が適切です（後ろに「不特定な期間」

Duringも「～の間」を表すが、こちらは後ろに「特定期間」

at + 時刻

ago(副詞)の反対はin(前置詞)

時刻ならat、曜日・日付ならon、月ならin

by + 日付・曜日・時刻で期限や締め切りを表す

in a few minutes 「数分後に」

in stock（在庫がある） out of stock（在庫切れ）

over a year（1年間にわたって）

as of ～「～日以降、～日現在で」

in business「商売を行って」

まぎらわしい形容詞：confident「確信した」、confidential「秘密の」

the following day 「次の日」

熟語： be aimed at ～ / look at ～ / smile at ～

briefly「簡潔に」 /normally「普通に」 /lately「最近」 /nearly 「ほとんど」

従属接続詞

接続詞 ①等位 and,but,or …

②従属 when,if, because,although,once,providing,in case... +SV型 →副詞節を作る



duringとin spite ofは「前置詞」なので、後ろには「名詞」

once 接続詞「いったん〜すると」

so that 接続詞「〜するために」 /in order to 不定詞「〜するために」

/in case 接続詞「〜する場合に備えて・〜するといけないから」 /so as to 不定詞「〜するために」

等位接続詞：both A and B（AとBの両方）、either A or B（AかBのどちらか）、neither A nor B（AもBもどちらも〜ない）

前置詞と接続詞の違いに注意

接続詞because／前置詞because of（〜なので）、接続詞while／

前置詞during（間）、接続詞(al)though／前置詞despite, in spite of（〜だけれども）

時・条件の節では、未来のことであっても動詞は現在形

urgent matter「急用」

board meeting「取締役会」、put off「〜を延期する」、scheduling conflict「予定の重複」

provided that SV 接「もし〜なら」

in case SV 接「〜するといけないので」

carry out「〜を実施する、実行する」

接続詞中の省力

従属接続詞（while、whenなど）の後ろでは、sとvは省略可能

※2つの条件 ①Sが主節の主語と同じ、②Vがbe動詞 の場合に限る

前置詞→名詞

接続詞→S V

in hours「数時間で」

so as + to不定詞「〜するように」

on duty「勤務している」

as to ～「〜に関して」は前置詞

whether 接続詞（名詞節の場合は「〜かどうか」）

whether ～ or not「〜かどうか」

have an impact on ～「〜に影響を与える」

asked if ～「〜かどうか尋ねた」

in time for ～「〜に間に合うように」

名詞節も作る従属接続詞

that / if / whether

as to ～=about ～

ask（たずねる）、doubt（疑う）、wonder（〜かしらと思う）、など「疑問」系動詞は、疑問に思うことが目的語

「〜かどうか」を表すwhether/ifとうまくつながる

that S V を続ける場合は…

「命令」系（**suggest**、**request**）、「思う」系（think、**believe**）、「事実確認」系（know、**confirm**、**admit**）、「お知らせ」系（**announce**、inform）の動詞

boarding gate「搭乗口」

consultは、**consult (with)** a doctorのように後ろに相談相手が続く。consult if svのパターンにはならない

**complain to ～ that …** 「～に…であると文句を言う」

whetherだけでもwhether or notでも、その意味は「～かどうか」

**We are pleased to inform you**はメールや手紙の冒頭で、相手に良いお知らせをするために使われる表現

「～を喜んでお知らせ致します。」

命令系統の動詞とthat節

requestはsuggest型なので、that以下はshould 原形／原形になる

suggest型はすべて「命令」の意味をベースにしているため、that節の中も「命令文（動詞の原形）」になる

命令系の動詞→**提案、主張、要求、命令、決定**

S V that S V※原型

**propose/suggest/insist/advise/recommend/request/order/decide/asist**など

**現在／過去／未来のどの時制であっても、命令系統の動詞が主節にある限り従属節内の動詞は原形**

workshop「研修会、工房、作業場」

take part in ～「～に参加する」

- ①主節の動詞が命令の意味か
- ②that節があるか

この2点を確認して動詞の形を選ぶ

**inquire as to ～**「～について問い合わせる」

**upcoming**「近日開催の」

**It is necessary that ～**は「～は必要だ」という命令に近い意味

**It is important that ～**（～は重要だ）、**It is essential that ～**（～は不可欠だ）

などもthat節の動詞を原形にするパターン

使役動詞

①**make**②**have**,③**let (④help)** :SVOC(原型)を取る

**in full** 「全額」

**ahead of time** 「事前に、早めに」

“**help 人 原形**” 「人が～するのを手伝う」の形

helpは、もともと”help 人 to 原形”の形だったが、徐々に（直接原形がとれる）使役・知覚動詞の仲間入り

toが省略できるようになった特殊な動詞

Please **let** me know if you have any questions.

ご不明な点がございましたらお知らせください。

使役とは、誰かに何かをさせる、またはしてもらうこと

Ms. Kato had her assistant arrange a welcome party.

S=Mr. Kato、V=使役動詞haveの過去形had、O=her assistant

3人称単数のher assistantだからといって、(arranges)を選ぶのは誤り

**demand**「需要」

**keep up with** ～「～に対応する、～についていく」

**make**は「強制的に～させる」、**have**は「仕事上／義務上～させる」、**let**は強制や義務ではなく「したいように～させる」

**Why not** ～? は**Why don't you** ～? と同じく「～したらどうですか」という意味

stand out「目立つ」

shelf（棚）の複数形は「shelves」

operate「作動する、働く」

pick up「～を集める、手に取る」

**not applicable**（略すとN/A）「該当なし」

**be applicable to** ～ = **apply to** ～「～に当てはまる」

**SVOCのパターンをとる動詞**

※C＝形容詞

**leave OC** 「OをCの状態のまま放っておく」

**make OC** 「OをCにする」

**find OC** 「OがCだとわかる」

**ever before**「これまで」

Open 動詞：開ける/形容詞：開いている

makeには①C＝動詞原形で「OにCをさせる（使役）」、②C＝形容詞で「OをCの状態にする」の2つのパターン

**get**はSVOC（形容詞）のパターンをとる場合もあり、「OをCの状態にする」の意味

merger agreement「合併合意」

SVOC（C＝形容詞）のパターンをとる代表的な動詞は**make、find、leave、keep、get**